

[取材のご案内] 2月13日(日)式典当日以外の日程でもインタビュー取材可能です！

認定NPO法人テラ・ルネッサンス

◆現在の活動

『すべての生命が安心して生活できる社会の実現』を目的に2001年に設立。現在では、カンボジア、ラオスでの地雷や不発弾処理支援、地雷埋設地域の生活再建支援、ウガンダ、コンゴ、ブルンジでの元子ども兵の社会復帰支援を実施。また、日本国内では、平和教育（学校や企業向けの研修）や、岩手県大槌町で大槌刺し子を運営するなど、世界6カ国で国際協力活動を展開。新型コロナウイルス感染症の影響で国内志向が強まる中でも多くの支援者によるサポートによって予算規模年間3億円を達成しながら「社会的に脆弱な人々」への支援を絶やすことなく続けている。



●理事長 小川真吾

コロナ禍で苦しんでいるのはアフリカの人々も同じ

2020年1月から新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大し、多くの国際協力NGOが途上国からの帰国や撤退が続く中でもアフリカの支援現場に残ることを選択した。コロナの影響でさらに脆弱な暮らしを余儀なくされる人々のために奔走。アフリカには新型コロナウイルス以外にも従来からマラリアなど多くの人が命を落とす脅威が存在するが、それらに怯えて暮らすのではなく、うまく脅威と付き合いながらも自分らしい在り方や人々とのつながりのある暮らしを築き、しなやかに生きることに重きを置く。長くアフリカの現場に立ち続けるからこそ見えてきた今後の社会の姿、そして日本人だからこそできることとは何かをお伝えする。



●創設者 鬼丸昌也

すべての始まりは「自分に何ができるのか？」という問いから

大学4年生の時に「自分にできることは伝えることだ」と、テラ・ルネッサンスを創設。以来、「ひとり一人に未来をつくる力がある」という熱いメッセージを込めた講演は大勢の人の心を打ち、現在では全国に●●名規模の支援者を持つ。講演の場に足を運んだ人々の心に「自分にできること」の種をまき続けて20年。寄付市場が変化し、新型コロナウイルスによって社会が様変わりする今、次の10年に向けて国際協力NPOが果たす役割とは何か。今後の社会の在り方を見据えてお話しします。